

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話=編集②2121、広告
③2323、総務・販売③2222
©十勝毎日新聞社 1988

十勝と宇宙開発

国際シンポジウム出席者座談会

第二部
<出席者>
航空宇宙技術研究所宇宙
研究グループ主任研究官
新田 慶治氏
新潟大学助教授
高橋 敬雄氏
アメリカ航空宇宙局 (N
ASA)、エイムズ研究所
**ロバート・
マッケロイ氏**
司 会 小野寺 裕
(本社政経部)



新田 慶治氏



高橋 敬雄氏



ロバート・マッケロイ氏

司会 今、世界各国で宇宙 宇宙ステーションや月面有人
開発が活発に進められ、有人 基地、宇宙住環境の開発など

将来、国際協調へ
新田氏 宇宙開発は今が夕

陽系への生活の場の拡大。宇宙の
現段階で、日本は技術摩擦が 専門家を連れて戦略的
広い

多くの構想が実現に向かっ
ている。そこで宇宙開発の今
の方向や日本、とりわけ広い
土地を持つ北海道・十勝の役
割、また宇宙基地誘致が十勝
の基幹産業である農業にとん
なメリットがあるか、など
について聞きたい。まず宇宙開
発の将来と日本の役割から。

ーシンポジウム。当面は少
なくともアメリカのリーダ
シップが続くが、一方で資金
的、人材的に各国と国際協力
を進めていくだろう。一昨年、
ペインリポート(米の今後の
宇宙政策を示した提言)が出
ているが、次の時代の開発方
向は人類の地球から宇宙(太
空)へ、四年ほど宇宙開発の研究

視野での考え方は出来ない
が、例えば日本の環境浄化技
術も宇宙開発に利用できるの
ではないか。日本の科学者が
蓄積した情報が多くの面で生
かされると思う。

日本が主戦力に
マッケロイ氏 自身の宇
宙への関心は二つある。一つ
は月面基地、宇宙ステーション
での人々の生活を維持する
こと。もう一つは火星での生
命の可能性の探索だ。そして
私の今の活動は将来十、二十
年後の人々の宇宙での生活を
支えていく研究だ。私は将来
的に人類が宇宙に住むようた
なるを確信している。困難な
ことではあるが、まず世界各
国が手を取り合っていくこと
が必要だと思ふ。

新田氏 現状ではメリ
カ、ソ連だけが人間を宇宙に
送る手段を持っているが、將
来においてはこれでは宇宙が
協調の場になりたくない。技術
を持って多くの国の参加が不可
欠だろう。日本は国土が狭く、
例えば広大なエリアを必要と
する打ち上げ場を建設する場
所がないのか、といった議論が
あふれる。ただ、地元
に基地を支える基盤がなければ
ならず、北海道・十勝が本
当に適しているかという問題
は政治家などレベルの高い所
で判断すべきになるのでは
ないか。

適不適、政治判断に

宇宙への動機が先決

小林 隆太郎
0155-53583

精神的背景を

防犯・防犯設備
相談はフジ防犯
電話0878-22137

高橋氏 基本的には新田先
生と同じ意見で、日本の中で
宇宙基地に適した場所は北海
道くらい。
今の宇宙基地は種子島など
南西の小島に置かれている
が、開発がスケールアップす
ると見えてくるはずだ。

(1)(1)